

有利販売を目指して 一採材現地検討会を開催一

9月8日（火）鮭川村内の国有林にて最上総合支庁と当支署との共催により採材現地検討会を開催しました。当日は残暑厳しい中、自治体の林務担当・県立農林大学校・林業事業体等・支署より82名が参加しました。

初めに素材生産の現状・造材の内容を説明後、スギ伐倒木4本を対象に4つのグループに分かれて採材（曲がり等の欠点を考慮し切断位置に印を付す）を行いました。

採材後は各グループより採材の結果を発表。そして森林管理局より採材の適否についての講評がありました。採材結果に基づき造材（チェーンソー等で切断）して、目論見通りの素材（丸太）が生産できたのか、節や曲がり、変色などの欠点が影響しないか検証しました。

最上総合支庁からは、広葉樹利用の取組についての情報提供がありました。

最後に、はい積み（地面に素材を積み重ねたもの）の本数と材積（ m^3 ）をスピーディーに把握できる「電子検知システム」の解説と実演、手作業と比較にならない早さに興味津々でした。

有利な販売に結びつくよう長尺材（2mよりも4m材）、一般材（合板材・低質材より優先）の採材を目指すこと、ひいては地域の林業の発展に資することを願い、検討会を終了しました。



農林大学校学生による採材



林業事業体の採材結果発表



電子検知システムの実演

最先端の林業機械を目の当たりに 一林業機械の実演会に参加一



9月24日（木）、白鷹町内の民有林にて、山形県森林研究研修センター主催の「林業機械による下刈り・地拵えの実演会」が開催されました。参加者は農林大学校の学生など24名です。

実演機械は2種類。アームが長くて処理範囲が広く、グラップルの爪で挟んだレーキで地表の枝などを片付けることができる「全油圧固定式ロングリーチグラップル」と、かん木はもちろん枝や根株までも破砕できる「乗用下刈機」（山もっとジョージ：商品名）です。

当日はオペレーターによるデモンストレーションの後、参加者の中から希望者が数人ずつ操作を体験しました。

乗用下刈機は急斜面なら危険防止のため自動的に停止すること。スギの根株はドラムに付いた40枚の刃により、何回かの往復で粉々になりました。

地拵えを機械化することにより、作業の効率化や低コスト化、その後の植付と下刈をも含め現地の安全確保、ひいては林業の成長産業化が一層推進されるよう、今後の活躍が期待されます。

写真上：レーキを付けたロングリーチグラップル 下：乗用下刈機の操作体験（後方右は破砕されたスギ根株）



スポンタケ

山形森林管理署 最上支署

〒999-5312 山形県最上郡真室川町大字新町字下荒川200-11
TEL:0233-62-2122/FAX:0233-62-2706



国民の森林・国有林